

手賀沼のほとりに白樺文学館



㊦志賀直哉旧居。我孫子市が公園化したので、めでた手賀沼は遠くなり薄暗い㊦道を挟んで、その前に出来た白樺文学館。彫刻も鑑賞できる㊦上下とも文学館内部の展示



我孫子市緑2-11-8白樺文学館0471-69-8468

大正時代に手賀沼の美しい景観に魅せられた文人たちが、我孫子に住居をかまえた。素朴な日常雑器に美を認め、民芸という言葉が普及させた柳宗悦が志賀直哉を呼び、直哉が武者小路実篤を招いた。この三人が文芸同人誌「白樺」で活躍した。また、滝井孝作、中勘助も住んだ。ことし一月に直哉旧宅前に、三階建ての白樺文学館がオープンした。コンピュータソフト会社日本オラクルの会長が私財を投じたもので、三千点という白樺派ゆかりの原稿や書簡、書籍を公開しており、閲覧、読書ができる。

我孫子を「若き文芸闘士の一大拠点」だったとし、「さあ、彼らの息吹を吸おうではないか」と勇ましい。意外な書簡の展示もあるから、「息吹」を読むための散策にいい。

直哉旧居、文学館があるのは成田への旧道、昭和になっても、すぐそこまで沼が広がっていたという。家が建て込み、旧居は陰鬱な景観を見せている。文学館は、金土日月が公開日、火水は市民大学を開いている。

逆井漫歩34

平成13年7月